

第2回家庭教育支援指導者等研修 実施レポート

日時：令和2年9月10日（木）10時～15時

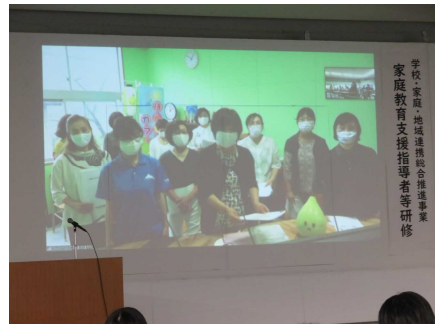
会場：秋田県生涯学習センター 3階 講堂

参加者：73名（うち市町村等から52名）

今回は「事例から学ぶ家庭教育支援チームの活動」「専門家の視点からみる家庭教育支援活動」「問題を抱える保護者に対するチーム対応」という3つの講話を基に、「どのような支援体制でキャッチできるか」ということについて協議しました。

【午前の部① 講話（オンライン）】

にかほ市家庭教育支援チーム **ほんわっか**のメンバーが、旧上郷小学校「にかほのほかに」からZoomを使って、にかほ市におけるチーム立ち上げの実際について細やかに発表してくれました。立ち上げのきっかけは、平成28年度の本研修への参加が原動力となったそうです。いつでも何でも相談できる場所をつくりたい、自分たちがつなぎ役になることで悩み事を解決したいとの思いを共有し、活動を重ねてきました。また、今後の活動の進め方やチームの方針をことあるごとに確認し合っているそうです。その一例がチーム紹介のチラシの変化に見てとることができます。保護者にさらに寄り添えるように「相談してね！」から「おしゃべりしましょ！」とキャッチコピーを変えたと紹介してくれました。地域の子育て支援事業を一覧にし、支援全体を横のつながりでみていくことや、チームが主体的に学校や地域に働きかけることで、より連携を密にできることなど、参考となる内容が盛りだくさんでした。



【午前の部② 講話】

大館市の助産院イスキア院長の**菅原 光子**氏が、大館市における孫育て講座の実践について、具体例をあげながら講話してくれました。県では共働き夫婦の増加を背景に、孫育てに奮闘するシニア世代が増加しています。そこで、祖父母世代が子育てに協力するうえで問題になること、特に世代間のズレや子育て情報の違いなど、今と昔で何が違って何が変わらないのかについて現状を紹介してくれました。「育児中、言われて嫌だったこと／嬉しかったこと」の事例は、世代が離れていても共通点が多く、参加者にとってうなずける事柄ばかりでした。



結びに、孫育てを進めるうえで大切なポイント＜①自分の経験談を押しつけない子育て支援 ②地域で子育て・孫育て＞を挙げました。母親を・両親を褒め認め合えるように、互いに聴き合う態度をもち、優しいおせっかいをしていくことができるような地域のつながりが大切であるとまとめられました。

【午後の部 講話・協議】

県中央児童相談所の**千葉 俊彦**副主幹（兼）児童福祉司が、児童相談所における児童虐待の相談対応を中心に講話してくれました。県では児童虐待の相談対応件数が年々増加し、令和元年度では588件、中でも子どもが目の前で過度な夫婦喧嘩を見るといった心理的虐待が顕著です。虐待の原因や影響、兆候に触れ、早期発見と早期対応の重要性について強調されました。また、現在市町村には支援拠点の整備に努めるよう示していると加え、つなぐ役割をもつ家庭教育支援チームには、支援体制を理解し身近な場所での継続的な支援をしてほしいと話されました。3つの講話を受けたグループ協議では、キャッチできる支援体制として、あいさつや声かけ“おせっかい”を広められるつながり、普段から話したいことを話せるような居場所づくりが必要とする一方で、どこまで支援できるか、していいのかわからないという率直な意見もありました。家庭教育支援チームの活動は地域学校協働活動そのものです。チーム員だけではなく、学校関係者や地域の福祉関係者と目標を共有して、連携・協働のあり方を探っていくことが、今求められています。



【参加者の声】（抜粋）

- ・行政の提案事業にのって活動しているだけでは3年でここまでは多様に事業展開できていないと思う。「自分たちの活動」にしていると感じた。
- ・祖父母世代の方は悪気があって言葉掛けのズレが発生するわけではないので、ちょっとしたコツやヒントを知っているだけで家庭間のコミュニケーションが上手いき、子育てに強い秋田県になると感じた。
- ・虐待の話は中々聞けない内容だった。体制の構築や連携について、まず自分の市の現状把握から始めたい。